

特66  
722

國定小學地理  
歷史表解

普通學講習會著  
第二學年用

大阪  
田中榮堂發行

39 9 1

丙六

022691-000-8

特66-722

地理歷史表解(國定小學)第2學年用

普通學講習會/著

M39

ADB-0467





# 小學地理表解 第二學年用

普通學講習會著作

卷之二		七地方	縣廳の所在地	師團司令部	軍港	開港場
樺太	民政署	九春古丹				
臺灣	總督府	臺北				
北海道	十一道廳	札幌	七師團—上川 (未開設)			室蘭、釧路、小樽、函館 基隆、淡水、安平、打狗
九州	八十二縣	福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿兒島、那霸	六師團—熊本 十二師團—小倉	第三軍港 佐世保	鹿見	長崎、門司、博多、若松、口津、唐津、三角、那霸、佐須奈、殿原
四國	四十四縣	德島、高松、松山、高知	十一師團 善通寺			
中國	五十二縣	岡山、廣島、山口、鳥取、松江、松山	五師團—廣島	第二軍港 吳		糸崎、下關、濱田、境、宮津
近畿	二府五縣 十五國	大津、京都、奈良、津、和歌山、大坂、神戶	四師團—大坂 十師團—姫路	第四軍港 舞鶴		神戸、大坂、四日市、武豐



# 畿 近

地 勢 國 位

位置  
 本州中部の西南。  
 東——本州中部地方、伊勢海。  
 西——中國地方、海を隔て、四國。  
 南——太平洋。  
 北——日本海。

京都府  
 丹波城  
 丹波磨馬路  
 但馬津  
 淡路  
 攝津  
 河内  
 和泉  
 兵庫縣  
 大坂府  
 三重縣  
 伊勢  
 伊賀  
 志摩  
 紀伊  
 和歌山縣  
 滋賀縣  
 奈良縣  
 大和

東西にわたれる山脈  
 南北にわたれる山脈  
 北部——中國山脈  
 南部——紀伊山脈  
 東部——鈴鹿山脈  
 西部——金剛山脈

IIの形

# 方 地

海 岸 氣 候 産 物

故に、北部と南部とは高地にて中部低し。  
 東西に平野あり  
 東の平野——伊勢米の産地。  
 西の平野——大坂平野。  
 東——志摩半島——伊勢海。  
 南——紀伊大半島——潮岬  
 西——大坂灣。  
 北——與謝半島——宮津灣

一般に、寒暑共に、やよきびし。  
 雨——中部は少く、北部はやよ多く、南部は最も多し。

攝津米。伊勢米。棉。茶。吉野杉。檜。松。  
 西陣織。縮緬。染物。清水焼。七寶焼。河内木綿。  
 綿ネル。綴通。紡績糸。蜜柑。酒。鹽。金。銀。



滋賀

管轄 (近江、一市十二郡)

位置 東 岐阜縣、三重縣。 南 三重縣。 西 京都府。 北 福井縣。

地勢 東、南、西、北 鈴鹿山脈 (スガカ) 中央は低くなり、琵琶湖を湛ふ。

平原 琵琶湖の四邊に小平野あるのみ。江州米の産地。

山 比叡山 山上のながめよろし。延暦寺。天台宗の本山。

賤ヶ岳 小さな山なれども古戦場として名高し。

伊吹山 五千尺。比良岳。

鵜海、又は、志賀海ともいふ。

琵琶湖 周回六十里、面積八十方里

日本第一の大湖。汽船の往來。沿岸に近江八景。

縣

都會

大津市 (三萬八千) 縣廳のある所。交通の要地。 彦根町 (二萬) 彦根公園。 長濱町 (一萬一千) 縮緬の産地。一ヶ年二百五十萬圓。 草津町 (五千) 米原 鐵道のわかれ道。

鐵道

東海道線 岐阜より米原に來り、京都に入る。 北陸線 米原より北に、敦賀に通ず。 關西線 三重縣より草津に達す。 近江線 彦根より南西に走り、貴生川にて關西線に連絡。

產物

江州米。長濱縮緬。蚊帳。菜種。鯉。鮎。麻。 伊吹山の艾。黄玉(寶石)。

名所

近江八景。延暦寺。園城寺。彦根公園。賤ヶ岳。

小學地理二



# 京都

管位平地海岸

轄置勢野岸  
 山城(一市、八郡)。丹波の内(五郡)。丹後(五郡)。  
 東福井縣、滋賀縣、三重縣。南奈良縣、大坂府。  
 西兵庫縣。北日本海。  
 中國山脈來りて、西北部一帶は山地なり。  
 西南部に少しく低地あるのみ。  
 野 西南、宇治川の流域に小平野ありて、大坂平野に連る。  
 出入多くして、港灣多し。  
 岸 西北に與謝半島突出して宮津灣をいづく。  
 經ヶ崎 與謝半島の先端  
 越前崎 越前の西方  
 比叡山 鞍馬山。愛宕山。笠置山。古戰場。  
 山 北に流るゝもの。由良川。宮津灣に入る。  
 南に流るゝもの。賀茂川、桂川、保津川、皆、宇治川に入る。  
 河 北に流るゝもの。

府廳のある所、我國第三の大都會  
 一千餘年間の帝都、市街正し。  
 上京區、下京區の一區。西京とも云  
 京都御所、二條離宮、帝國大學、

# 府

都會鐵道名産物

京都市(三十七萬九千) 博物館、平安神宮、北野神社、知恩院、本願寺、清水寺、金閣寺、  
 大坂より百四十里 銀閣寺、  
 奈良より十里 發電所、灌漑の便。  
 伏見町(二萬) 京都より三里、伏見稻荷。  
 舞鶴町(二萬) 第四軍港のある所、開港場。  
 宮津町(一萬) 山陰の良港、茶の産地、平等院  
 福知山町(七千) 旅團のある所。宇治、茶の産地、平等院  
 東海道線 滋賀縣より來り、京都を経て大坂に通ず。  
 京都線 福知山に通せんとするもの。工事中。  
 阪鶴線 大坂より新舞鶴に通ずるもの。  
 奈良線 京都より奈良の間に通ずるもの。  
 關西線 三重縣より來り大坂に通ずるもの。  
 西陣織(三千五百萬圓) 鴨川染。清水焼。栗田焼。  
 漆器(京ものといふ)。七寶焼。白粉。紅。京人形。  
 宇治の茶(一ヶ年五十四萬貫)。峰山縮緬(丹後)。  
 京都神社、佛閣、圓山公園、宇治の平等院、嵐山の櫻、高尾の紅葉、笠置山。  
 天の橋立(日三景の一)。宮津灣中にあり。海中に突出する。廿七町四十間幅三十七間。青松生ひしげる。



良 奈

管轄——大和(一市、十郡)

置東——三重縣。

西——大坂府、和歌山縣。

南——和歌山縣。

北——京都府。

地勢 東の境——鈴鹿山脈。南——紀伊山脈の最高部。  
西の境——金剛山脈。北——笠置山脈。  
南部はことに山深く。北部に少しく平地あり。

山 大臺原山。<sup>オホダイハラ</sup> 金峰山。<sup>キンソウ</sup> 釋迦ヶ岳。<sup>シヤカ</sup> 金剛山。<sup>オウゴン</sup> 葛城山。<sup>カツラギ</sup>  
多武峰。山上岳(五千七百五十尺)。大日岳。

西に流るゝもの——大和川。吉野川。

南に流るゝもの——北山川。熊野川となる。  
十津川

縣

都會

奈良市(三萬三千) 縣廳のある所。七十五年間の帝都。  
郡山町(一萬四千) 春日神社。東大寺。興福寺。正倉院。  
櫻井町(五千) 博物館。

奈良線——京都より來り奈良を過ぎ、櫻井に至る。

關西線 大阪より奈良を過ぎて名古屋に至るもの。  
王子より別れて櫻井に至るもの。

鐵道 紀和線——五條より和歌山市に通ずるもの。  
南和線——五條、高田間。

產物 吉野杉(百四十萬圓)。吉野紙。奈良晒。<sup>ナラシ</sup> 筆。墨。  
奈良漬。人形。漆器。茶。鹿の角細工。

名所 奈良の神社佛閣。吉野山——行在所のあと——櫻。  
談山神社——多武峰——藤原鎌足。  
畝傍山——神武天皇の御陵。法隆寺。  
月ヶ瀬の梅。



三重

管轄

伊勢(三市、十郡)。伊賀(二郡)。志摩(一郡)。  
紀伊の内(二郡)。

位置

東——伊勢の海、遠江灘。南——熊野浦。  
西——滋賀縣、奈良縣。北——三重縣、岐阜縣。

地勢

西に鈴鹿山脈あり、南に紀伊山脈あり。  
西南に高く、東北にかたむきて低くなる。  
地形メの字の如し、

平野

伊勢の海の沿岸——伊勢米の産地。

海岸

伊勢の海に沿へる海岸は灣形をなして良港に富む。  
志摩半島より南は小出入多けれども良港なし。  
志摩の大王崎より南を熊野灘といふ。

山

鈴鹿山。大臺原山。東宮山。朝熊山。

縣

河——揖斐川。雲出川。宮川。熊野川。名張川(木津川)

都會

津市(三萬六千)——縣廳のある所——伊勢の中央。  
四日市市(三萬)——開港場——萬古燒——綿糸の産地。  
宇治山田市(三萬三千)——伊勢神宮のある地。  
桑名町(二萬一千)——米の取引盛なる地。  
上野町(一萬五千)——伊賀の中央。  
鳥羽町(五千)——志摩の良港。

鐵道

關西線——名古屋より大坂に通ずるもの——支線——津市迄。  
參宮鐵道——津市より宇治山田市迄。

産物

伊勢米(百三十萬石)。綿糸。茶。萬古燒(十三萬圓)。  
伊賀燒。阿漕燒。眞珠。伊勢鱒。

名所——伊勢神宮

内宮——天照大神。二見浦。  
外宮——豐受大神。



和歌

山縣

管轄 紀伊の内(一市、七郡)

位置 東 奈良縣、三重縣。 北 大阪府。  
西、南 太平洋。

地勢 紀伊山脈わだかまり、山深くして、平地に乏し。  
内地より、急に海岸に向ってかたむく。

平野 紀川キウカハの下流に小平地あるのみ。

海岸 屈曲多けれども、斷崖絶壁ダンガンゼツベキにて、良港なし。  
南の端 潮岬、波ここに荒し 船行危険キケン。

山 高野山 金剛峰寺。 大塔峰。 大雲取山。

紀川 四十七里 吉野川の下流。 熊野川。

河、瀑 有田川 沿岸は蜜柑の産地。

那智瀑 日本第一 高さ八十四丈 横十丈八尺。

和歌山市(六萬八千) 縣廳のある所。 綿ネルの産地。

新宮町(一萬六千)。 湯淺町(一萬)。 田邊町(八千)。

黒江町(八千) 黒江塗の産地。

關西鐵道紀和線 和歌山市より五條に通ずるもの。

南海線 和歌山市より大阪に通ずるもの。

綿ネル(四百萬圓)。 木綿織。 紋羽織モンバオリ。

蜜柑(九百萬貫目)。 黒江塗(八十二萬圓)。 木材。

名産物 和歌の浦 明光浦メイコウホ 日本三景につげる勝地。  
高野山。 那智の瀧。 紀三井寺。



# 大坂

都會

大坂市  
(百十一萬)

日本第二の都會。日本第一の商業地。東西二里廿四町。南北二里廿町。東區、西區、南區、北區。縱横に堀河を通ず。川口——築港。鐵道の集點——停車場十九ヶ所。大坂府廳。第四師團司令部。造幣局。高津神社。天王寺。生魂神社。天滿宮。紡績糸、隣寸の大産地。

管轄——攝津の内(一市、四郡)。河内(三郡)。和泉(一市、二郡)

位置——東——奈良縣。西——兵庫縣、大坂灣。南——和歌山縣。北——京都府。

地勢——北の境——中國山脈。東の境——金剛山脈。南の境——和泉山脈。中央は大坂大平野。

海岸——攝津、和泉の海岸は一大灣をなせども小屈屈なし。

山——金剛山。生駒山。

河——淀川。大和川。

# 府

堺市(五萬四千)——昔よりの貿易港。織通、及物の産地。

岸和田町(一萬二千)。池田町(七千)。東海道線——東京より、京都、大坂を経て、神戸に通ずるもの。

關西線——名古屋線——大坂、奈良、四日市、名古屋行。河内の北部、京都の南部に通ず。

南海線——大坂、堺、岸和田、和歌山行。大坂より、河内の南方長野に通ず。高野線——大坂の柏原と長野との間をつらぬ。河内線——梅田停車場より安治川口まで。西成線——

紡績糸(二千五百萬圓)。鱗寸(四百萬圓)。綿(六十二萬貫)。油菜種(八萬五千石)。河内木綿。硝子。堺の織通と及物。池由の炭。蜜柑。酒。

名産物——住吉——住吉神社。大坂城。天王寺。高津神社。妙國寺(堺)。四條畷。楠木正行。千早城趾。櫻井。箕面の瀑。



# 兵 庫 縣

管轄 攝津の内(一市、三郡)。丹波の内(二郡)。但馬(五郡)。淡路(二郡)。

位置 東 京都府、大坂府。南 瀬戸内海。西 鳥取縣、岡山縣。北 日本海。

地勢 中央に中國山脈ありて高く、北に山多し。南と北とにかたむく。

平地 野 攝津の東南部。加古川の下流地方。

海岸 日本海海岸——小出入あれども良港なし。瀬戸内海海岸——小出入に富み良港あり。淡路島——由良海峡——大坂灣の口——堅固なる砲臺。

氣候 北 北部は寒くして南部は溫暖なり。

山 六甲山(武庫山)。摩耶山。書寫山——奇景。

河、瀧 南に流るるもの——武庫川。加古川。市川。北に流るるもの——朝來川。布引の瀧。

日本第二の大貿易港、輸出入多し。

## 縣

都會 神戸市(廿八萬四千) 縣廳のある所。紡績糸、燐寸の産地。

姫路市(三萬三千) 第十師團司令部、革細工の名産。

明石町(二萬三千) 人丸神社——明石の浦。

尼ヶ崎町(一萬八千) 西の宮町(一萬六千)——酒の大産地。

生野町(九千) 銀山。伊丹町(九千) 柳行李の産地。

赤穂 四十七士——鹽の名産地。豊岡——柳行李の産地。

東海道線 東京より來り神戸を終りどす。

山陽線 神戸より馬關に達するもの。

阪鶴線 尼ヶ崎町より新舞鶴に達するもの。

播但線 姫路より和田山町に通ずるもの。

支線 姫路より飾摩に通ずるもの。

西の宮附近の酒——日本一の産地(五十三萬石)。紡績糸。

燐寸(六百萬圓)。赤穂の鹽——日本一の上等品。生野の銀、金(合計四十萬五千圓)。柳行李(豊岡)。龍野の醬油。

名産物 姫路の革細工。攝津米。播磨米。須磨の舞子。明石。港川神社。布引瀧。有馬の温泉。城崎温泉。一の谷——源平の古戰場。



中國

位

國

地

置

本州の西端—近畿地方の西。  
東—近畿地方。  
西、南—日本海、九州。  
南—瀬戸内海をへだて、四國  
北—日本海。

岡山縣 備前 備中 備後 備前 備中 備後  
廣島縣 安藝 防府 長門  
山口縣

鳥取縣 因幡  
島根縣 出雲 石見 隱岐

勢

中央に、東西にわたれる中國山脈—地勢を南北に分つ。  
瀬戸内海斜面  
山陽道の地—北高く南低し。  
山陰道の地—南高く北に低し。  
川は南に急流—洪水の害多し。  
川は北に流れ、大河少し。  
大なる平野なし。

地方

海

氣

産

岸

候

物

瀬戸内海々岸  
日本海々岸

瀬戸内海斜面  
日本海斜面

瀬戸内海斜面  
日本海斜面

出入極めて多く、良港多し。島嶼多し。  
東の口—明石海峡。西の口—馬關海峡。  
兒島半島—兒島灣。廣島灣。室津半島。  
島根半島 中海をいづく。良港に乏し。  
夜見ヶ濱

一般に溫暖なれども、冬は風寒し。  
雨最も少く、海岸は製鹽業盛なり。  
北風を受けて寒く、雪多し。  
雨量多き地方なり。

米。麥。烟草。棉。鹽。壘表。花苳。  
木綿織物。麥稈眞田。魚類。  
米。牛。砂鐵。人參。紙。魚類。  
生糸。



# 廣 島 縣

管轄——安藝(二市、七郡)。備後(一市、九郡)。

位置——東——岡山縣。南——瀬戸内海。西——山口縣。北——島根縣、鳥取縣。

地勢——中國山脈、縣内を東西に走り、地勢を南北に分つ。地方——江川の流域地。南方——瀬戸内海斜面。縣内山岳のみ多くして、平野なし。

海岸——屈曲頗る多く、良港に富む。島嶼多し。西に廣島灣——嚴島、江田島、倉梯島。

氣候——中國山脈以北は寒くして雪ことに深し。中國山脈以南は、南によるに従ひ、溫暖なり。

山——御神山。美古登山。天神山。鬼城山。河——太田川。蘆田川。江川の上流。

# 縣

都會

廣島市(十一萬五千)——中國第一の都會。廣島縣廳。第五師團司令部。東京より二百三十餘里。

吳市(六萬三千)——第二軍港——大造船所。尾道市(三萬)——良港。糸崎——開港場。福山町(一萬六千)。宇品町——築港——牡蠣。

鐵道——山陽線——岡山縣より來り、廣島を経て山口縣に入る。支線——海田市——吳の間。廣島、宇品の間。

產物——備後の疊表。保命酒。安藝の山繭紬。牡蠣。鹽(百萬圓)。蚊帳。麻。宮島細工。

名所——嚴島(宮島)——嚴島神社——平清盛の建立。日本三景の一。

○小學地理二



# 岡山

管轄——備前(一市、六郡)。美作(五郡)。備中(八郡)。

位置——東——兵庫縣。南——瀬戸内海。西——廣島縣。北——鳥取縣。

地勢——北部に中國山脈ありて土地一般に高し。東と西の境にも高山ありて、中央南部に低し。

平野——岡山の近傍に小平野あるのみ。

海岸——出入多く、良港少からず。水島灘。中央に兒島半島突出して、兒島灣をいただく。

氣候——北部は寒く、雪多し。南部は温暖。

山——<sup>ナキノセン</sup>那岐山。三國山。大佐山。

河——東大川(吉井川)二十七里。西大川(旭川)三十七里。

# 縣

## 都會

岡山市(八萬) 縣廳のある所。中國第二の都會。  
後樂園——日本三公園の一。

玉島町(二萬)——四國への渡船地。津山町(一萬八千)。

笠岡町(一萬)。倉敷町(九千)。高梁町(六千)。

山陽線——神戸より來り、岡山を経て、廣島縣に入る。

## 鐵道

中國線——岡山より津山に通ずるもの。  
<sup>タカ</sup>堪井線——岡山より<sup>タカ</sup>堪井に通ずるもの。

米。麥。鯛。<sup>ハナムシロ</sup>花蕪(四百萬圓)。

## 產物

紡績糸(六百六十萬圓)。疊表(四十五萬圓)。  
<sup>ムギワラサナグ</sup>麥稈真田(二百五十萬圓)。津山の雲齋織。

煙草。弓部燒。鹽。



# 廣島

管轄——安藝(二市、七郡)。備後(一市、九郡)。

位置——東——岡山縣。南——瀬戸内海。西——山口縣。北——島根縣、鳥取縣。

地勢——中國山脈、縣内を東西に走り、地勢を南北に分つ。地方——江川の流域地。南方——瀬戸内海斜面。縣内山岳のみ多くして、平野なし。

海岸——屈曲頗る多く、良港に富む。島嶼多し。西に廣島灣——嚴島、江田島、倉梯島。

氣候——中國山脈以北は寒くして雪ことに深し。中國山脈以南は、南によるに従ひ、溫暖なり。

山——御神山。美古登山。天神山。鬼城山。河——太田川。蘆田川。江川の上流。

# 縣

都會

廣島市(十一萬五千)——中國第一の大都會。廣島縣廳。第五師團司令部。東京より二百三十餘里。

吳市(六萬三千)——第二軍港——大造船所。尾道市(三萬)——良港。糸崎——開港場。福山町(一萬六千)。宇品町——築港——牡蠣。

鐵道——山陽線——岡山縣より來り、廣島を経て山口縣に入る。支線——海田市——吳の間。廣島、宇品の間。

產物——備後の疊表。保命酒。安藝の山藪紬。牡蠣。鹽(百萬圓)。蚊帳。麻。宮島細工。

名所——嚴島(宮島)——嚴島神社——平清盛の建立。日本三景の一。



管轄 周防(六郡)。長門(一市、五郡)。

本州の最西端。

位置 東 廣島縣、島根縣。南 周防灘。

西南 日本海、九州。北 日本海。

地勢 中國山脈、西北地方を東西に走り、地勢を南斜面と北斜面とに分つ。

南斜面は廣くして平地をなす。防長米の産地。

海岸 出入極めて多し

南海岸 周防灘 東 室津半島。西 下關海峡。西海岸 響灘。北海岸 川尻崎。

山 德佐峰。權現山。

河 岩國川。佐渡川(以上南流)。阿武川(北流)。

(山口町(一萬八千)) 縣廳のある所。高等學校あり。

### 縣

都會

下關市(四萬五千)

東京より二百九十里。神戸より西にて、第一の要港。瀬戸内海の西口。早瀬瀬戸。對岸、門司との間五町。一ヶ年の輸出高。一千八百萬圓。堅固なる砲臺。東に、壇の浦の古戰場。

萩 町(一萬八千) 夏蜜柑の産地。

岩國町(七千) 岩國縮、錦帶橋。

山陽線 岩國、柳井津、三田尻を経て下關。同支線 大嶺、厚狹の間。石炭輸送。

鐵道 長防米(一〇〇萬圓)。魚類(二百廿萬圓)。夏蜜柑。岩國縮。硯。煙草。萩焼。

名産物 岩國の錦帶橋。壇浦。平氏滅亡の地。春帆樓。廿七八年戰役、馬關條約談判所。



管轄 因幡(一市、三郡)。伯耆(三郡)。

東 兵庫縣。南 岡山縣、廣島縣。

西 島根縣。北 日本海。

位置 南の境に中國山脈ありて土地高く、北にかたむき、直に海岸にせまる故、大なる平地なし。

地勢 西北に夜見濱(長さ五里)の突出あるのみ。出入少く、良港なし。

海岸 大山(五千六百尺—中國第一)。船上山—名和長年。  
扇山。菅野山、蛭山。船通山。

# 鳥取縣

河、湖 日野川。天神川。千代川。  
東郷池 池中の温泉—鰻の名産。

都會 鳥取市(三萬一千)—縣廳のある所。  
米子町(一萬六千)。倉吉町(九千)。

鐵道 境 町(六千)—開港場—山陰第一の良港。  
—山陰線—境、米子鳥取に通ずるもの、工事中。

產物 米。生糸。綿。砂鐵。海松細工。牛。材木。  
白珊瑚。倉吉紙。

名所 船上山—名和長年の後醍醐天皇を奉せし地。  
大山寺。



# 島根縣

管轄——出雲(一市、六郡)。石見(六郡)。隱岐(四郡)。

位置——東南——鳥取縣、廣島縣。  
西南——日本海、山口縣。北——日本海。

地勢——南部に中國山脈ありて、一帶の高地をなす。  
石見には、ことに山岳多く、土地西北にかたむく。

平野——出雲——斐伊川  
石見——江の川  
の下流地方に小平野あり。

海岸——出雲の北部に島根半島(宍道湖)をいただく。  
石見の海岸は出入少し。

島——島前——島後——周回三十里——西郷港——境より廿里  
隱岐——中の島——後鳥羽上皇の宮跡。  
知夫里——後醍醐天皇の宮跡。

山——三瓶山(三千九百尺)。三石山。雪月山。大麻山。

河、湖——江の川——山陰第一の大河——五十餘里。  
斐伊川——二十里——水源は船通山——素盞鳴尊。  
宍道湖——東西四里、南北一里半——周回十一里。

都會——松江市(三萬五千)——縣廳のある所——山陰第一の都會。  
濱田町(一萬三千)——開港場——貿易少し。  
杵築町(五千)——出雲大社——大國主命。  
今市町。津和野町。

産物——人參。砂鐵。出雲燒。半紙。瑪瑙。

名所——隱岐の鯛(三十萬圓)。宍道湖の鱸。  
杵築の大社。松江の風景。



四國

地方

三十一

位置

國

地勢

中國地方の南方。近畿地方と九州との間。  
 東——紀伊水道。南——太平洋——土佐灣。  
 西——豊豫海峽。北——瀬戸内海  
 伊豫灘。

德島縣——阿波。愛媛縣——伊豫。  
 香川縣——讃岐。高知縣——土佐。

四國山脈——西南より——中央——東北  
 阿波の中央。讃岐の南境。

土地のかたむき  
 東方斜面——阿波。  
 北方斜面——伊豫、讃岐。  
 南方斜面——土佐。

東部海岸——中央——蒲生田岬。  
 東北——鳴門海峽。

北部海岸——良港多し  
 東——三崎  
 西——楯取岬  
 濠洲

西部海岸——佐田岬——豊豫海峽。

南部海岸——東——室戸岬  
 西——足摺岬  
 土佐灣。

海岸——すべて出入多し

氣候

四國山脈より南の地方  
 温暖——雪の降ること稀なり。  
 雨——我國にて雨多き地方。  
 寒暑の差や、強し。  
 四國山脈より北の地方  
 雨——我國にて少き地方——製鹽

産物

農産——阿波の藍。阿波、讃岐の甘蔗。  
 水産——東北海岸の鹽。南海岸の鯉節。鯨。珊瑚  
 鑛産——別子の銅。市川のアンチモニー。  
 工業品——阿波縮。伊豫紵。伊豫、土佐の紙。



管轄——阿波(一市、十郡)。

東——紀伊水道。

南——太平洋。

西——愛媛縣、高知縣。

北——香川縣。

位置

四國山脈は、西境にて二脈に分る

南——國の中部。  
北——讃岐山脈。

土地西北に高く東南にかたむく。

小出入多し。中央東端——蒲生田岬。

地勢

幅一里——大鳴門、小鳴門。

東北——鳴門海峡

一時間に七八哩の速力にて流る。  
船行すこぶる危険。

海岸

野——吉野川流域地方——德島近傍。

平野

山——<sup>ヤハタ</sup>矢筈山。 劔山(七千四百尺)。 焼山寺山。

河

吉野川(四國三郎)——

長さ四十一里——河口多くに分る。  
流域の平野——藍——日本一。

那賀川——二十八里。

都會

德島市(六萬三千)——縣廳のある所、四國第一の大都會

撫養<sup>ムサ</sup>町(一萬八千)——齋田鹽<sup>サイダ</sup>の賣買場。

小松島村(一萬三千)

鐵道

——德島線——德島市より西、船戸迄。

産物

齋田鹽(五十萬圓)。 藍——日本第一の産地(四百六十萬貫)

煙草(廿六萬貫)。 阿波縮。 絨織<sup>シラオリ</sup>。

鯉。 鰻。 鯛。

名所

祖谷の蔓橋——長さ三十三間、幅四尺、高三十間。  
鳴門。



# 香 川

管轄——讚岐(二市、七郡)。

位置——東、北、西の三面は瀬戸内海。

南——徳島縣。

地勢

南境——四國山脈の支派——讚岐山脈。  
北に向つて傾き、海岸にせまき平地あり。

小出入多く、港に富む。

海岸——東北——播磨灘。

西——三崎——燧灘をいただく。

山——雲邊寺山。 矢筈山。 象頭山——金刀比羅宮。

# 縣

都會

高松市(三萬七千)——縣廳のある所——栗林公園。

丸龜市(二萬七千)

善通寺町(一萬一千)——第十一師團司令部。  
弘法大師の誕生地。

多度津町(八千)——金刀比羅宮參拜者の上陸地。

琴平町(七千)——金刀比羅神社。  
大日貴命(オホナムチノミコト)を祀る。  
崇徳天皇(スリトク)。

鐵道——高松——丸龜——多度津——琴平間。

產物——甘蔗——砂糖の産額——二百二十萬貫。  
鹽(二百萬圓)。 藍。 石材。

名所——栗林公園——三公園におとらぬ公園。  
金刀比羅宮。 屋島——源平の古戰場。



管轄——伊豫(一市、十二郡)。

東——香川縣、徳島縣。 南——高知縣。

西——海をへだて、九州。 北——瀬戸内海。

西南より東北に、四國山脈わたりて一帯の高地。

中央に支脈を出して、高繩半島をつくる。

東部地方——北にかたむく。

西部地方——西北にかたむく。

東——一大灣——燧灘。

高繩半島——楫取岬 西——伊豫灘。

西南 佐田岬——十里——豊豫海峽。

佐田岬より南には、出入ことに多し。

石槌山——四國第一の高山——七千餘尺。

高繩山。 鬼ヶ城山。 吉森山。

河——脈川

### 縣

都會

松山市(三萬六千)

縣廳のある所。伊豫鐵道の中心。伊豫紵の産地。

今治町(一萬六千)——良港。 宇和島町(一萬三千)。

三津濱町(九千)——東西船舶の寄港する所。

鐵道——伊豫鐵道

一、本線——高濱——古町——松山——横河原。

二、支線——古町——道後——一番町。

三、支線——松山——郡中。

四、支線——立花——森松。

産物 甘蔗(百四十五萬圓)。 紙(百三十三萬圓)。

別子の銅(二百六十萬圓)。 アンテモニー(八萬圓)。

名所——道後の温泉——松山市の北——十八町。

○小學地理二 三十七



管轄——土佐(一市、七郡)。

東——德島縣。南——太平洋——土佐灣。

西——愛媛縣。北——德島縣、愛媛縣。

地勢 四國山脈は、西南より、北、東の境一帯につらなる。南方に向つて急に傾斜し、平野なし。

海岸 東——室戸岬 小出入あり、良港なし。  
西——足摺岬 一大灣——土佐灣 地震のため陥没。

山——御在所山。矢筈山。白髪山。瓶ヶ森山。

河 仁淀川——二十六里。

渡川(四萬十川)——四十八里——急流。

### 縣

都

會

高知市(三萬五千)——縣廳のある所——土地大に低し。  
浦戸——高知灣の入口にある港。  
高岡町。中村町。

産

物

土佐半紙(三百萬圓)。材木(七十二萬圓)。  
鯨、鯉節、珊瑚。その他の海産物(九十萬圓)。

名

所——高知城の公園。龍串の奇景。



# 九州地方

## 位置

本州の西南方、四國島の西方。  
 東に豊後海峡をへだて、四國、及び太平洋。  
 北に北九州防灘をへだて、本州。西北に日本海、玄海灘。  
 西に東支那海。南に太平洋。

## 國

福岡縣 筑前 筑後  
 大分縣 豊前 豊後  
 佐賀縣 肥前  
 長崎縣 壹岐 對馬  
 熊本縣 肥後  
 宮崎縣 日向  
 鹿兒島縣 大隅  
 薩摩 薩摩  
 沖繩縣 琉球

## 地勢

三大山脈 北部山脈 五島、平戸島より入り、東北に走り中國に入る  
 南部山脈 天草島より肥後の南東、日向の北、四國に入る  
 火山脈 南北に走る 開聞岳、櫻島、霧島山、阿蘇山、東北に折れて 國東半島  
 土地の最高部 中央部 肥後、日向の國境。  
 高低 中央部より四方に低くなり、西北部は少しく高し。  
 平野 筑紫平野 筑後川の下流地方  
 肥後平野 白川の下流地方 肥後米の産地。

## 海岸

東北部 國東半島 南に別府灣。  
 西北部 博多灣 唐津灣 伊萬里灣。  
 西部 彼杵半島 東に大村灣。南に野母半島。  
 島原半島 東に有明海 海底淺し。  
 宇土半島 北は有明海 南は八代海。  
 天草島 東に八代海。  
 南部 東南に志布志灣 日向、大隅。  
 東部 大なる出入なく、良港に乏し。

## 氣候

一般に大に溫暖なり 北の海岸地方 二二三寸の雪降ることあり  
 沖繩縣 寒暑の二季あるのみ 南部の地方 雪降らず、夏は暑し。  
 雨量 南部は多雨 北部はやや少し。

## 産物

農産 筑紫平野の米、榎の原料。肥後平野の米、粟、大豆。甘藷 南部にこそ  
 に多し。砂糖。國分煙草(薩摩) 長崎煙草。南部の馬 薩摩馬。日向の材木  
 椎茸。  
 水産 五島附近の鯨、その他の漁獲。肥前、薩摩の海は漁業に多し。  
 磯産 石炭 日本第一の産地 豐前、筑前、筑後、肥後。金 薩摩。豐後の硫黄。  
 工業品 博多織。小倉織。久留米絨。薩摩上布。薩摩絨。芭蕉布。疊表。花菱。有  
 田焼。薩摩焼。



# 福岡

**管轄** 筑前(一市、九郡)。筑後(一市、六郡)。  
**位置** 東 大分縣、周防灘。南 熊本縣、佐賀縣。  
 西 佐賀縣、玄海灘。北 玄海灘。

**地勢** 中部高く、四地方に分る  
 一 玄海灘斜面。  
 二 遠賀川流域。  
 三 周防灘斜面。  
 四 筑紫平野。

**平原** 筑紫大平野 有名の農産地 筑後米。  
**海岸** 中央に門司の半島 東 周防灘 出入少く良港なし。  
 西 玄海灘 博多灣 淺し。

**山** 英彦山。福智山。立花山。背振山。  
**河** 遠賀川 北に流る 上流地方は石炭の産地。  
 筑後川 筑紫二郎 南に流る 三十五里 幅五町。

福岡市(七萬) 東 博多 西 福岡 縣廳。醫科大學。開港場。

# 縣

**都會** 門司市(三萬八千) 九州の最北端 下關海峡の口 砲臺。  
 九州鐵道起點 開港場 石炭の輸出地  
 小倉市(三萬三千) 第十二師團司令部  
 久留米市(三萬三千) 筑紫平野の要地 久留米餅。  
 大牟田町(二萬九千) 若松町(二萬) 石炭の輸出港。

**鐵道** 九州線 門司 小倉 福岡 久留米 熊本。  
 豐州線 小倉 中津 字佐。  
 支線 行橋 香春 添田。  
 筑豐線 若松 南方 石炭産地に至るもの。  
 この外、石炭輸送のため小枝線多し。

**産物** 石炭 筑豊炭田 二十六億斤 日本全産額の五分の三。  
 三池炭 良質 十三億斤。  
 筑後米(百七十萬石) 博多織(八十萬圓) 小倉織。  
 久留米餅(二百六十萬圓) 蠟(二千萬斤) 茶(廿七萬貫)。  
 酒(二十萬石) 國東半島の疊表。

**名所** 大宰府 大宰府神社 香推宮 仲哀天皇。  
 箱崎八幡宮 米島半島 福岡市の西 元寇の遺跡。  
 八幡製鐵所 若松市の對岸 日本第一の大製鐵工場。

○小學地理二



# 大分

管轄——豐後(十郡)。 豊前の内(二郡)。

東——海をへだてて、四國。 南——宮崎縣。

西——福岡縣、熊本縣。 北——周防灘。

北——周防灘。

東部——大野川の流域。

西部——山國川、筑後川の上

地勢

火山脈、中央を南北に貫く

縣内山岳多くして平野少し。

海岸

國東半島——火山脈の末端。

佐田岬と對して吸速海峡

南——豐豫海峡。  
北——別府灣。

# 縣

山

祖母岳——九州第一の高山——六千五百尺。 英彦山。  
火山——鶴見山、由布岳(豊後富士)。 面子山。

河

大野川。 山國川——上流數里の間——耶馬溪。

都

都會——大分町(一萬一千)——縣廳のある所。  
中津町(一萬五千)。 別府町(七千)——有名の温泉場。  
白杵町(一萬一千)。 佐伯町(八千)。

鐵道

豐州線——福岡縣小倉市より宇佐に通ずるもの。

產物

疊表(百三十萬圓)。 蘭蓆カムシロ。 硫黃(八十萬斤)——九州第一。  
推茸(三十萬貫)。 漁獵。

名所

耶馬溪——山國川の上流數里の間——日本三奇景の一。  
宇佐八幡宮——和氣清麿。 別府溫泉。



管轄——肥前の内(一市、八郡)。

位置  
東——福岡縣。南——有明海。  
西——長崎縣。北——福岡縣。玄海灘。

地勢  
東北——福岡縣との境に、一帯の山脈。  
西南——長崎縣との境に一帯の山脈。  
中央——一帯の丘陵——東松浦半島。  
東南部は一帯の平地——筑紫平野。

海岸  
北海岸——東松浦半島  
東——糸島半島と對し唐津灣。  
西——西松浦半島と對し伊萬里灣  
南海岸——出入少く、良港なし——潮の満干、甚多し。

山——背振山。鏡山。虚空藏山。

河——筑後川。松浦川——北に流る。

### 縣

## 佐賀

都會  
佐賀市(三萬四千)——縣廳のある所。  
唐津町(一萬二千)——開港場の一。  
有田町(六千)——有田燒(伊萬里燒)の產地。  
伊萬里町(五千)。武雄町(八千)。

九州線——わづかに東部をよぎる。  
長崎線——鳥栖にて分れ、佐賀——有田、早岐、長崎。  
唐津線——久保田より分れ、西唐津に至る。

鐵道  
伊萬里線——有田——伊萬里の間。  
有田燒(七十萬圓)。石炭。米。麥。

產物  
漁獵(百五十萬圓)。

名所——名古屋——東松浦半島の北端——秀吉征韓の本陣。

小學地理二

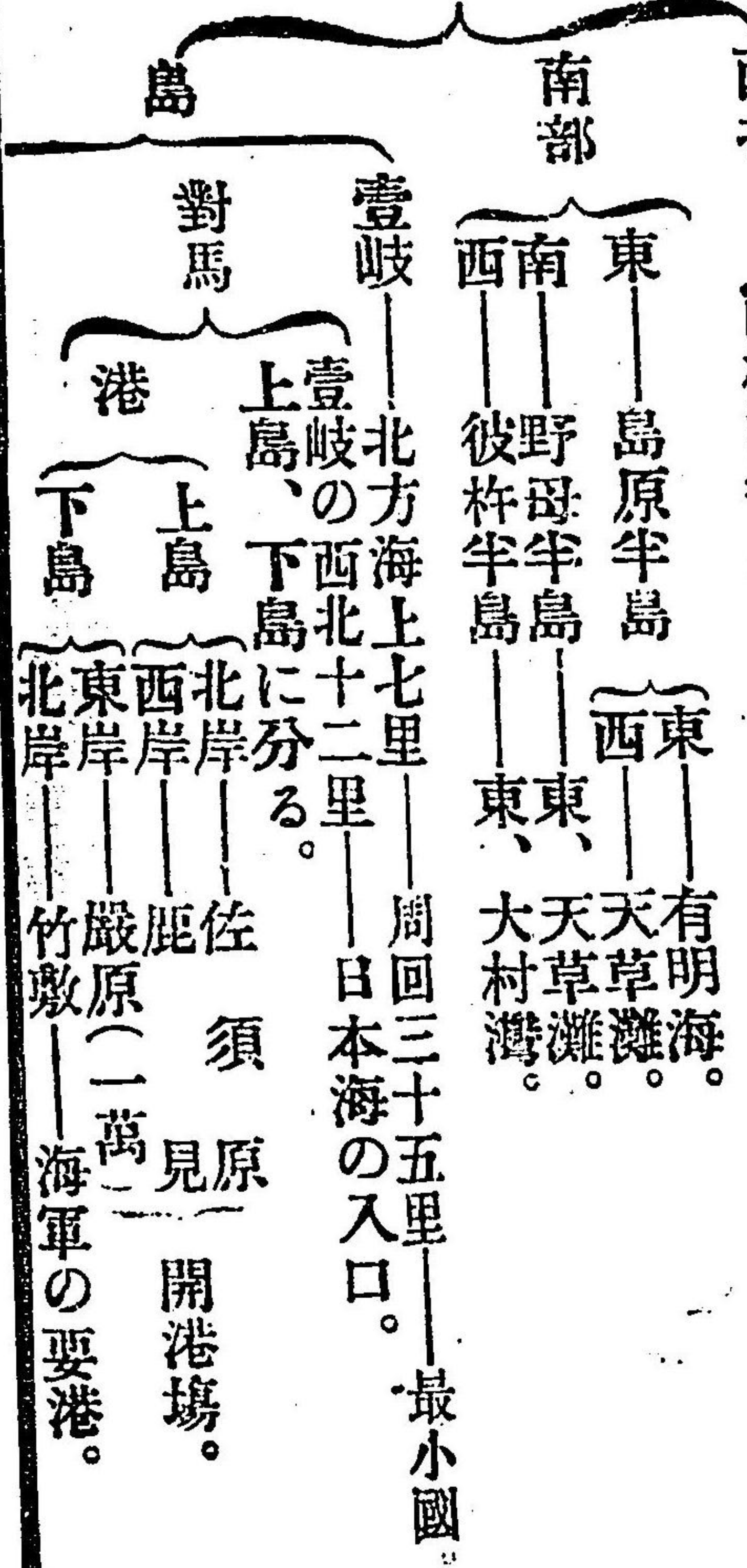


# 長崎

## 管 轄

肥前の内(二市、六郡)。壹岐(一郡)。對馬(二郡)。  
 東 佐賀縣、有明海。  
 西 東支那海。  
 南 天草灘、熊本縣。  
 北 朝鮮海峽、韓國。  
 勢 全縣下、半島と島とよりなり、丘陵多く、平地なし。

## 海 岸



# 縣

山 温泉岳——四千七百尺。三嶽山(對馬)。  
 九州第一の大都會。昔よりの開港場  
 縣廳。三菱造船所。

都會 長崎市(十五萬二千)——第三軍港。  
 佐世保市(五萬三千)——三池石炭の輸出地。

鐵道 長崎線——佐賀縣より來り——早岐——大村——長崎。  
 佐世保軍港。

產物 煙草(六萬貫)。石炭(四十六萬噸)。甘藷(九千八百萬貫)。  
 五島、平戶島、壹岐、對馬の漁獵(三百二十萬圓)。

名所 長崎の籠甲細工。樟腦。硫黃。  
 鷹島——古戰場——弘安の役。  
 温泉岳の温泉。

○小學地理二



管轄——肥後(一市、十三郡)。

東——大分縣、宮崎縣。南——鹿兒島縣。

西——有明海、天草灘。北——大分縣、福岡縣。

東部と南部とは、火山脈つらなり、土地最も高し。西部と北部とに低くなり、肥後の平野をなす。

宇土半島——島原半島に對す。北——有明海。南——八代海。

八代海の西方——天草島——西方——天草灘。

大火山——熊本の東十一里。

阿蘇山(五千五百尺)

昔の噴火口——東西七里、南北四里。世界第一の大噴火口。

一町、十四ヶ村、住民四萬

冠山。御帽子山。

# 熊本

河——球磨川——日本三急流の一。白川。

都會——熊本市(五萬五千)——縣廳。第六師團司令部。高等學校。熊本城——加藤清正。

八代町(一萬二千)。三角町(四千)——開港場。人吉町(五千)。

九州線——福岡縣より來り、熊本、宇土、八代迄。

同枝線——宇土より三角港迄。

肥薩線——八代より、人吉を經、鹿兒島に通ず、工事中。

肥後米(百二十萬石)。麥(八十八萬石)。粟(五十五萬石)。大豆。牛(五萬五千)。馬(十一萬)。杉。松。柏。その他の材木。海産物(百五十萬圓)。煙草。酒。

名所——田原阪——明治十年の大戦争地。不知火の奇景。

# 縣



# 宮崎

管轄——日向(八郡)

位置——東——太平洋。南——太平洋。西——熊本縣、鹿兒島縣。北——大分縣。

地勢——北、西、南の三方に山岳重り、西部はことに高し。國中にも、亦、山多く、急に東に傾斜し平地なし。

海岸——東海岸——日向灘——一帯に出入少く、良港なし。南方に、大隅の大崎と共に志布志灣をいづく。

山——霧島山——東——高千穂峰——五千尺——活火山。西——韓國山——五千三百尺——休火山。祖母岳。白髮山。鈴山。市房山。諸塚山。可愛岳。

河——皆、東に流る——吾箇瀨川。美々津川。大淀川。

# 縣

都會

宮崎町(一萬一千)——縣廳のある所。宮崎宮。都城町(一萬五千)——高千穂宮のあと。細島町(四千)——本縣第一の良港。延岡町(四千)——椎茸、紙の産地。

鐵道——肥薩線の一部わづかに西南を通るのみ。

産物——林産——杉、松、櫻、樅、榎その他(百五十萬圓)。砂糖(二十五萬貫)。牛。馬。日平の銅(二百四十萬圓)。椎茸。紙。炭。

名所——宮崎宮——神武天皇。

都城——高千穂宮のあと——神武天皇の誕生地。



管轄——薩摩(一市、七郡)。大隅(五郡)。

東——宮崎縣。

西、南——東支那海。北——熊本縣。

九州南部山脈——北部を東西にわたる。

火山脈——南北に走る。縣内、山岳多く平地少し。

岸 東——大隅半島——佐多岬  
西——薩摩半島——南西に野間崎  
鹿兒島灣。

種子島——周回三十八里——ポルトガル人の鐵砲を傳へし地。

屋久島——周回十六里——良質の杉あり。

大島——砂糖、甘蔗、大島紬の産地。

# 鹿 兒 島 縣

開聞岳(薩摩富士)——三千尺——船人の目じるしとす。

御嶽——火山——三千七百尺——櫻島にあり。

矢岳。國見山。紫尾山。高隈山。荒西山。

河——川内川——四十六里。

都會 鹿兒島市(三萬八千)——縣廳。良き港。  
國府(一萬)——煙草の名産——日本一の良品。  
〔薩摩燒。薩摩紬。〕

鐵道 谷山(二萬七千)——錫の大産地。

道——肥薩線——鹿兒島より吉松迄、肥後の八代に通ずるもの

金——日本第一産地(十二貫目、四十五萬圓)。  
薩摩燒。薩摩紬。煙草(七十五萬貫)。錫(二萬斤)。

産物 甘藷(一億二千萬貫)。燒酎。砂糖(三百七十萬貫)。

魚類(七十萬圓)。馬(十二萬頭、一頭六十餘圓)。大島紬。  
屋久島の杉——日本一の良質。櫻島大根。



管轄——琉球(二區、五郡)。

東北——薩摩諸島につらなる。東南——太平洋。

西北——東支那海。西南——臺灣につらなる。

地勢——土地狭く、山岳多く、平地、河流なし。

島——五十五島  
沖繩島——最も大なる島。

先島群島——宮古島。石垣島。西表島。

氣候——雪の降ることなく、春夏の二季あるのみ。  
暴風の吹き來ること多し。

那覇區(四萬三千)——縣廳のある所。開港場。

首里區(二萬四千)——那覇の東一里、もと、琉球王の居城。

### 沖繩

都會

### 縣

產物

熱帯性の植物を産す。

甘蔗(五百七十萬貫)。甘藷——二年に三回收穫。

豚(十一萬頭)。芭蕉布——芭蕉にて織りたるもの。

織物(四十五萬圓)——琉球紵——琉球紬。

泡盛酒(二十萬圓)。琉球塗。ハブ(毒蛇)。

男女共に簪をさす。衣服は左を上にし、細き帯をしめ、

跣足を常とす。

言語は内地と異なる。

先島群島は、男は遊び居り、女のみ働く。

風俗



位置

本州の東北。東—太平洋。西—日本海。南—津輕海峽をへだてて、本州。東北—カムチャツカ。オホーツク海。西北—宗谷海峽—樺太。

國

渡島。後志。石狩。天鹽。北見。膽振。日高。十勝。根室。千島。北海道廳—十八支廳。

面積

本島は、九州島と臺灣との合計より少しく大。六大島中の第二位。千島は、四國より少しく小。

山脈

東西に走るもの 千島火山脈。南北に走るもの 北州山脈。樺太より來り、天鹽、北見の境を南に走り、南端襟裳岬に入る。カムチャツカ半島より起り、千島列島となり、本島の中央を西に走り、渡島より本州に入る。

地勢

土地の高低 中央部最も高く、四方の海岸に向つて、次第に低くなる。平地は、全土の五分の一。

三大平野

石狩平野—石狩川の流域 長二十七里 幅五里餘 六億萬坪。十勝平野—十勝川の流域 九億萬坪。天鹽平野—天鹽川の流域 二億萬坪。

海岸—四方に大出入

西南 渡島半島の北—内浦灣(火山灣)。西南に—渡島半島 東—惠山岬 函館灣。西北に—後志半島—神威岬。南—襟裳岬。東北 知床岬。北—宗谷岬。東—野寒岬。西南部の外、良港なし。

根室灣。

北 海







位置

日本の最も西南端。  
東北——琉球諸島。  
南——海をへだて、フィリピン群島。  
西——臺灣海峡——清國。北——東支那海。

管轄——臺灣島、澎湖列島——臺灣總督府、二十支廳。

面積、人口

面積——九州島とほとんど同じ。  
人口——支那人、二百八十萬。蕃人、十萬。日本人、三萬。

地勢——臺灣山脈

中央より東にかたより、南北につらぬき、地勢を東西の二面に分つ。

東面——山脈急に海にせまり平地乏し。生蕃人の住地。  
西面——地のかたむきゆるやかにて廣き平野あり

海岸

東海岸——大出入なし、沿岸深けれども、上陸すべき地なし  
西海岸——遠淺にして、大なる屈曲なく、良港なし。  
北海岸——<sup>センタン</sup>尖端——<sup>東</sup>富貴角——<sup>東</sup>基隆港。  
南海岸——<sup>西</sup>尖端——<sup>西</sup>淡水港。  
澎湖列島——臺灣海峡の中心——四十七の島——軍事上の要地。土地平坦なれども、水なく、草木生長せず。

臺

氣候

南部三分の一は熱帯に入る。  
海風の影響により、割合に暑さ烈しからず。  
雨——一般に多し。北部は多く、南部は少し。  
風——年中強風多く、夏と秋には暴風多し。



灣

山

河

新高山(モリソン山)——一萬四千百五十尺——日本第一の高山。  
 シルヴィア山(一萬二千尺)——白色の石よりなれる山。  
 大屯山(三千尺)——休火山——火口の直径一千尺、深さ五百尺。  
 東の海に入るもの——卑南河。 秀枯樂溪。  
 北の海に入るもの——淡水河。  
 西の海に入るもの——大安溪。 大甲溪。 大里溪。  
 南の海に入るもの——下淡水溪。

臺 北(七萬五千)——臺灣總督府の所在地——支那風の市街  
 基隆港(一萬三千)——本島第一の港——内地と交通繁し  
 淡水港(六千)——港内水浅し。茶、樟腦の輸出地。  
 新竹(一萬九千)——市街は石の壁をめぐらす。  
 臺 中——混成旅團司令部のある所。  
 塗葛窟——西岸の中にある貿易場。

都 會

鐵 道

産 物

彰化(一萬五千)——市街は石壁をめぐらす。  
 嘉 義(二萬)——商業盛なり。高さ四間の城壁をめぐらす  
 臺南(四萬八千)——南部の大都、周回二里、高さ二丈の城壁  
 安平港——臺南より一里、海水浅くして、大船入らず。  
 打狗港(四萬)——南部の要港、大船は入る能はず。  
 恒 春——日本最南の都會——臺北より百二十里。  
 媽宮——澎湖島にあり——軍事上の要地——要塞。  
 臺灣縦貫鐵道——基隆より、島の西部を南に貫くもの、  
 枝線——臺北より淡水港に至るもの。  
 茶——一千七百萬斤。 砂糖——七千萬斤。 麻。  
 落花生。 藍。 米(一年二回収穫)質よろしからず。  
 鹽——三十萬石。 樟——世界第一の大森林——樟腦の製造。  
 椰子。 榕樹。 アナナス。 芭蕉。 硫黄。 石炭。 砂金。



位置 東——オホーツク海。 南——宗谷海峡——北海道。  
西——間宮海峡——シベリヤ。 北——シベリヤ。

管轄 北緯五十度より南の地——樺太民政署。

面積 凡そ一千八百餘方里。

東西にせまく、南北にせまし。

地勢 山脈南北にわたる

東部樺太山脈——片岡半島。  
南部樺太山脈 東——重藏半島。  
西——近藤半島。

東西両面に急に傾斜し、大河、平地なし。

### 樺

海岸

三大半島、二大灣

東北——片岡半島——片岡岬——七郎灣。  
西南——東——重藏半島——重藏岬——東伏見灣  
西——近藤半島——近藤岬

東伏見灣の奥に、更に千歳灣あり——東に、對馬岬。  
一般に小なる出入なく、良港なし。

### 太

氣候

寒氣烈しく、十一月より翌年四月迄海水氷結す。  
雨、雪多く、又、霧深し。

河流 波ロナイ河——七郎灣に入る。

都會 九春古丹(コルサコフ、人口一千)——民政廳所在地。

漁業 南部の海——鱈。昆布。鮭。鱒。海獸類。

農産 馬蹄薯。麥。材木。

鑛産 砂金。石油。石炭。

もと、日本人とロシア人との雜居の地。

間宮林藏、始めて島なることをたしかめたり。

明治八年、全島をロシアに與へ千島と交換す。

明治三十七八年戦役の結果、北緯五十度より南の地方を日

本の領地とす。



# 地

六大陸 {アジヤ洲。ヨーロッパ洲。アフリカ洲。北アメリカ洲。南アメリカ洲。オーストラリヤ洲。

五大洋 {太平洋。大西洋。印度洋。北極洋。南極洋。

海と陸との面積 {陸地は、海の面積の三分の一。陸地は、日本の面積の三百三十倍。

## 條約國

韓(保護國—統監府)。清。シヤム。イギリス(同盟國)。ロシヤ。フランス。オランダ。ドイツ。ポルトガル。スイス。ベルギー。イタリヤ。デンマルク。スエーデン。ノルウエー。イスパニヤ。オーストリヤ。ギリシヤ。アメリカ合衆國。メキシコ。ペルー。ブラジル。アルゼンチン。コンゴ。

## 地球の運轉

自轉——二十四時間——晝夜を生ず——一日。  
公轉——三百六十五日——春、夏、秋、冬を生ず——一年。

# 球

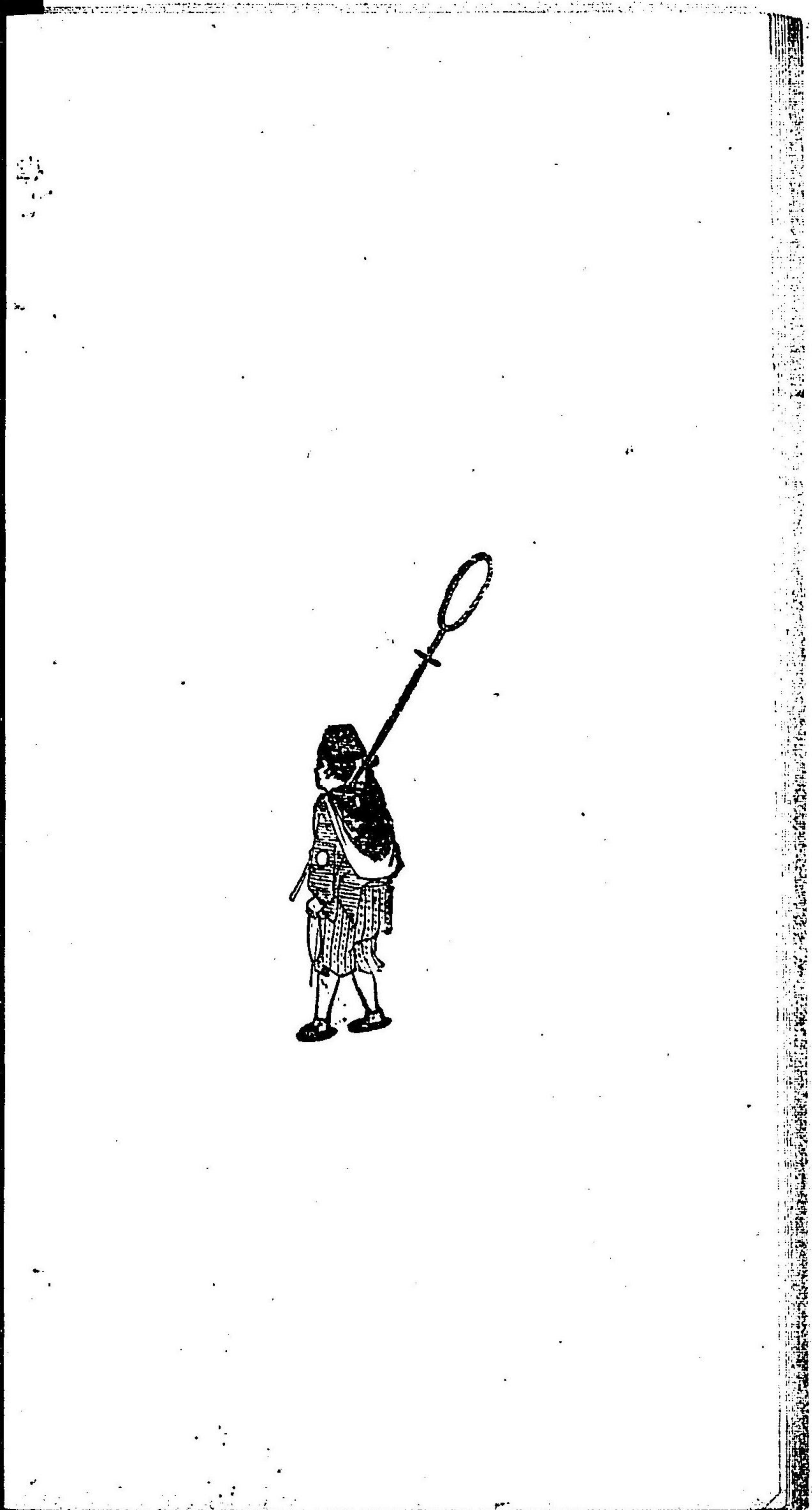
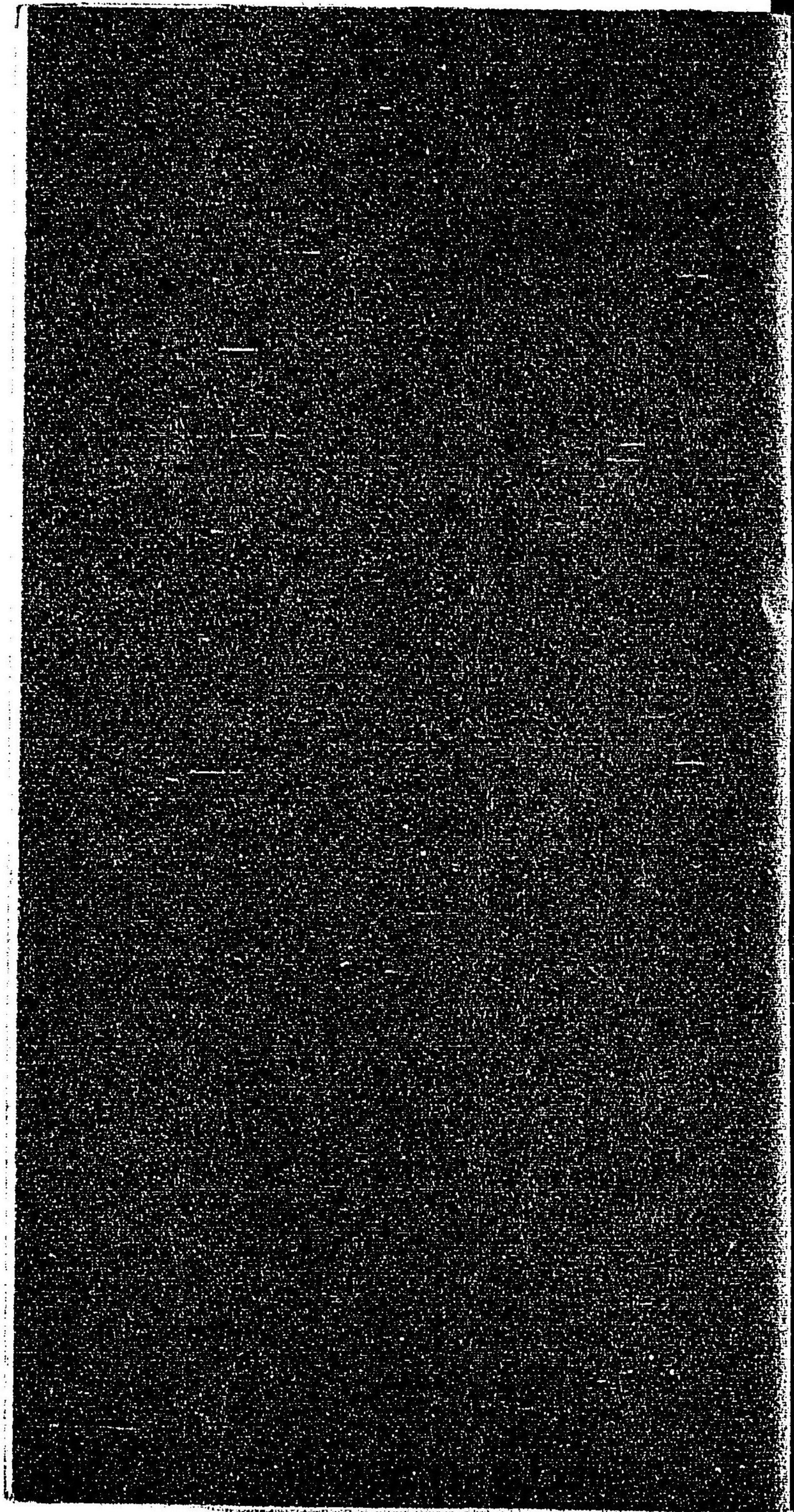
地球の表面に於ける位置

## 五帶

熱帶——赤道より南と北とへ二十三度半づつ——最も暑き地方  
北溫帶——北緯二十三度半より六十六度半迄——溫暖なる地方  
南溫帶——南緯二十三度半より六十六度半迄  
北寒帶——北緯六十六度半より北極迄——最も寒き地方  
南寒帶——南緯六十六度半より南極迄  
日本——臺灣の南部三分の一は熱帶、その他は皆溫帶。

緯度——赤道——南北の中央——北緯——九十度  
南緯——九十度  
經度——イギリスのグリニチを本とす  
東經——百八十度  
西經——百八十度  
東端——東經百五十六度二十二分  
西端——東經百十九度二十分  
南端——北緯二十一度四十八分  
北端——北緯五十度五十六分







# 小學日本歷史表解 第二學年用

普通學講習會著作

名高き人の死せし年				
楠木正成	新田義貞	楠木正行	足利尊氏	毛利元就
武田信玄	上杉謙信	織田信長	豐臣秀吉	
年齡紀元	四一九六	三九六	三〇八	二〇八
德川家康	中江藤樹	徳川光圀	貝原益軒	新井白石
大岡忠相	加茂真淵	本居宣長	伊能忠敬	
年齡紀元	七三七六	四三〇八	七三三〇	八三三四
松平定信	頼山陽	二宮尊徳	井伊直弼	西郷隆盛
大久保利通	木戸孝允	岩倉具視	三條實美	
年齡紀元	七三二四九	五三二四九	四二二五八	五二二五八



建武の

中興

中興の政治

光嚴天皇を廢す。

記録所——天皇の政治を決し給ふ役所。

雑訴決斷所——裁判する役所。

年號を建武と改む。

親王を諸方に分ち遣す。

功臣を賞す——尊氏、義貞、正成、長年。

宮城の造營。

朝廷の賞罰——公平を失ふ——不平の者多し。

源義家の子孫。

六波羅を滅し功第一となる。

大望——源氏幕府の再興。

北條時行の反亂。

直義、護良親王を弑す。

尊氏、時行を征伐す。

自ら征夷大將軍と稱す。

源義家の子孫。

尊氏を除かんとはかる。

尊氏を征伐に向ふ——尊良親王。

天下再び大亂となる。

中興の政破る

尊氏の反逆

義貞、征

伐に向ふ



南

北朝

尊氏反逆

西

上

足柄、箱根の戦——義貞——官軍大敗。

尊氏、直義京都に攻め上る。

北畠親房——顯家——あつを追ふ。

天皇比叡山に避けたまふ。

京都の戦——尊氏大敗——九州に走る。

皇統二分

後嵯峨天皇

後深草——持明院統——北朝。  
龜山——大覺寺統——南朝。

東

上

持明院統なる光嚴天皇の勅をうく。

九州——多々良濱の戦——官軍敗る——賊勢を得。

博多を發す——兵船七千——海路——直義。

港川の戦——正成戦死——義貞破れ歸る。

尊氏京都に入る。天皇、比叡山に幸す。

名和長年等戦死。

南北朝に分る

尊氏光明天皇を立つ。

尊氏詐り降参——天皇をおしこめ奉る。

天皇、三種の神器を奉じて吉野に行幸。

明治三十九年より五百六十九年前。

皇太子を奉じて越前に行く。

足利高經との戦争。

藤島の戦——矢に中りて死す。

親王を奉じて伊勢に行く。

高師直と和泉に戦ひて死す。

後醍醐天皇崩御——後村上天皇立つ。

吉野の宮を守護す。

高師直と四條畷に戦ひて死す。

南北朝の戦

顯家戦死

後醍醐天皇

正行戦死

足利氏内部の亂

南朝——官軍戦死

北朝——尊氏

南北朝の合一

大内義弘南朝に使して和を請ふ。

神器を後小松天皇に傳へ給ふ——五十七年間。



足 利 義 満

政治を整ふ

尊氏——義詮——義満。

細川頼之これを助く。

南北兩朝の和合。

もろくの法律を定む。

命に従はざる諸將を誅す。

足利幕府全くととのふ。

室町の家——花の御所。

太政大臣となる。

北山の別荘——鹿苑院——金閣寺。

北山殿——公方。

おごりに長ず

行列——上皇の御幸にならふ。

親王、公卿を従はしむ。

妻——北山院。

明國に通じて錢を得。

國体をはづかしむ——日本國王。

不法の行



應 仁

原 因

幕府の権力衰ふ

大内義弘——南朝の遺臣をむく。  
將軍義教弒せらる。

政治をかへりみず。

遊樂にのみふける。

租税を重く取りたてる。

將軍義政の失政

將軍家——義視——義尙

畠山家——政長——義就

斯波家——義敏——義廉

細川勝元 山名宗全

相續の争

政長——義就、兵をかまへたるに始る(應仁元年)  
(四百三十九年前)

戦 争

東軍——勝元——十六萬人  
西軍——宗全——十一萬人

天下の武士二つに分る。

の 亂

結 果

戰爭十一年——皇居、社寺、市街、圖書の焼失。  
宗全死す、勝元、亦死す——諸大武士を引てかへる。  
右京、大半焼失して野となる。  
政長管領となる——義政、義視と和睦す。  
幕府の權勢全く地におつ。  
諸國の武士幕府の命を用ひず、租税を納めず。  
天下大亂のもととなる。

義政のおごり

東山の別荘——銀閣寺——東山殿。

遊びにふける——茶の湯。

財政大に困難となる——錢を明國に求む。

皇室の御費用なし——大名の献上金。



# 英雄の割拠

## 將軍家

義尙將軍となる——義植——義晴。  
 政權臣下に歸す——三好——松永。

## 關東地方

### 鎌倉管領

基氏——尊氏の子。  
 勢、幕府をしのご。  
 公方、管領と稱す。  
 兩上杉氏 { 山ノ内家 }  
 { 扇ヶ谷家 }  
 持氏亡さる。

### 北條早雲

伊勢より起る。  
 關東地方を占領す。  
 氏綱——氏康。

## 中國地方

### 上杉謙信——越後

戰術に長ず——川中島の戰。

### 武田信玄——甲斐

今川義元——駿河に起る。

織田信長——尾張に起る。

## 中國地方——元利元就

{ 陶晴賢 }  
 { 尼子義久 }  
 を滅す——十三國占領。

## 四國地方——長曾我部元親(土佐)。

## 九州地方 { 島津義久(薩摩) } { 大友義鎮(豊後) }。

## 奥羽地方——伊達政宗。

大は小を呑み、強は弱を併す——百餘年間。



桶峽間の戦——今川義元を斬る——威名大にあがる。

幕府

將軍の權力全く衰ふ。  
三好長慶、松永久秀の専横。  
義昭、信長にたよる。

幕府費用を奉らず。

御即位の禮 行はれず。

御葬式の禮

宮城の破壊。

宮殿前の茶店。

諸大名よりの献上金。

御親筆の和歌。

織田

信長の奉公

天下平定の勅を受く——正親町天皇。

信

京都に入る

義昭を將軍とす。  
近畿地方を平定す。

宮城を修繕す。  
御料を奉る。

伊勢神宮を改築す。

足利氏亡ぶ

義昭、信長をねたみ兵を擧ぐ。  
義昭、毛利元就による。  
足利氏——二百四十年間。

諸方を定む

淺倉義景を越前に亡す  
淺井長政を近江に亡す  
武田勝頼を甲斐に亡す

家康の助力。

中國地方を定めんとす

秀吉——山陰、山陽。  
元就の軍大擧して來る。

本能寺の變

秀吉を助けんとす。

明智光秀の反逆——

信長 自殺。  
信忠



尾張國愛知郡中村木下彌右衛門の子——藤吉郎。

戰功

織田信長に仕ふ——足輕アシガタより次第ツツシに立身す。  
桶峽間の戰——大功あり。  
名を羽柴秀吉と改む。  
姫路城に居る。因幡、伯耆、平定。

中國に向ふ

備中高松城

水攻めにす。輝元の大軍いたる。本能寺の變。毛利氏と和睦。

山崎合戰

一戰にして光秀を滅す。

織田信孝、勝家、一益等の嫉妬。

秀吉、一益を伊勢に破る。

秀吉の將、清秀戰死。

柴田勝家等を亡す

賤ヶ岳の戰

七本鎗

勝家越前に自殺す。信孝殺さる。一益降參。

豊臣

大坂城を築く——天下第一の堅城——大坂の繁昌。

秀吉

政權秀吉に歸す

諸國平定

長曾我部元親降參。——九州平定。  
島津義久降參。——關東平定。  
北條氏政滅さる。——奧羽平定。  
伊達政宗降參。——全國平定(紀元二千二百五十年)

關白太政大臣となる——豊臣——太閤。

朝鮮征伐

第一回

目的——明國を征服せんとする。  
使を朝鮮に遣す——應せず。  
肥前名古屋城——陸軍十三萬——水軍一萬。  
連戰連勝、明の大軍を破る。  
和議を許し。諸將凱旋す。

第二回

和議破る——秀吉を日本國王に封ず。  
再び征伐の軍をやる——蔚山の戰——清正。  
秀吉薨す——諸將召しかへさる。



# 徳川

# 家康

幼時 新田義重の子孫——廣忠の子——三河に生る。  
 今川義元の許に人質となる。

信長と和睦 信長より和を求む。  
 朝倉、淺井、武田を討つを助く。

秀吉と和睦 家康、織田信雄を助く、小牧山の對陣。  
 長久手の戦——秀吉の軍破る——和睦。  
 北條氏を討つを助く——江戸城にうつる。

前田利家と共に秀頼を助く。  
 家康の威望ひとり盛。

政權家康に歸す

關ヶ原の戦

原 因 石田三成等の心配。  
 上杉勝景兵をあぐ。  
 三成、伏見城を攻め落す。  
 東軍——七萬五千人。  
 西軍——十二萬八千人。  
 天下の形勢二つに分る。  
 小早川秀秋の反應。  
 西軍大に破る。

結果 家康大坂に入る。  
 大に賞罰を行ふ。  
 天下家康に服す。

征夷大將軍となる——幕府を江戸に開く。  
 (三百四十年前)

大坂の役

冬の陣 原 因 淀君、大野治長の不明。  
 大佛供養——家康の難詰。  
 大坂兵をあぐ、兵士多く集る。  
 東軍勝つ能はず——和睦成る。  
 家康、ここにさらに内堀をうづむ。  
 大坂再び兵をあぐ——十二萬人。  
 治長事を用ふ——將士よるこばず。  
 秀頼、淀君自殺——豊臣氏滅ぶ。

夏の陣 原 因 片桐且元力をつくして秀頼をたすく。  
 大坂再び兵をあぐ——和睦成る。  
 治長事を用ふ——將士よるこばず。  
 秀頼、淀君自殺——豊臣氏滅ぶ。

政治

規則を定む——百ヶ條——武家法度——公家法度。  
 學問を盛にす——學者をあげ用ふ——書籍の刊行。  
 御三家——水戸、尾張、紀伊——諸大名のくばり方。  
 太政大臣となる——薨去——秀忠への遺訓——東照大権現

○小學日本歴史二



# 徳川

## 内政

三代將軍

家康の孫——秀忠の子。

諸大名の心をためす——非望ヒボウのものを挫く。

幕府を整ふ

參勤交代サンキンカウタイの制を定む——人質。

武家法度ブツホウダツ、公家法度の勵行レイコウ。

幕府の威權、甚だ盛になる。

ヨーロッパ人始めて九州に来る。

(三百七十七年前)

鐵砲テウポウの傳來デンライ

ポルトガル人種子島に來り鐵砲を傳ふ。

(天文十二年、二百六十六年前)

鐵砲大に歡迎せらる——戦争セウソウの法、一變す。

ポルトガル人ポルトガル人の渡來——南蠻人ナンバンジン——貿易。

イスパニヤ人イスパニヤ人の渡來——南蠻人——貿易。

基督教キリストキョウ（キリシタン宗）を傳ふ。

ポルトガルポルトガルの宣教師サビエー等來る。

(天文十七年)。

九州にひろまる——中國を経て京都に傳ふ

信長、京都に南蠻寺を建つ。

# 家光

## 外交

キリシタン宗の禁

秀吉、宣教師を追ひ、信者を殺す。

キリシタン宗を禁ず。

家康の外交——通商貿易を盛にす。

御朱印船。

伊達政宗、使をローマに遣す。

家光厳しくキリシタン宗を禁ず。

外國交通を禁ず（オランダのみ許す）。

キリシタン信者を殺す。

キリシタン信者の一揆イツキ。

島原の亂——益田四郎時貞を奉ず。

松平信綱やうやく平定。

宗門改めを行ふ。

外國の事情にうとくなり、世界の進歩におくる。



五代將軍——家光の子。

善政

學問を盛にす

家康の獎勵——家光盛にす。

光圀——彰考館——大日本史成る。

湯島に昇平校を建つ。

林信篤を大學頭とす。

木下順庵を登用す。

自ら書を講じて群臣にきかしむ。

中江藤樹——近江聖人(近江)。

山崎闇齋(京都)。

伊藤仁齋——子、東涯(京都)。

荻生徂徠(江戸)。

林信篤(大學頭)。木下順庵。

新井白石。

名高き學者

徳川

綱吉

惡政

殺生の嚴禁

子なし、戌の年——僧の言を信ず。

嚴しく殺生を禁ず。

犬を大切にす——犬公方。

政事に倦む——柳澤吉保の任用。

風俗おごりにかたむく。

遊樂にふけり、幕府の財政困難。

悪錢をつくる——財政みだる。

政治をみだる

赤穂の城主、淺野長矩と吉良義英との争。

赤穂の義士

長矩の臣大石良雄以下四十七人、義英を殺す。

四十七士は切腹を命せらる(元祿十五年)。



六代將軍——德川家宣の信任を得。

和漢の學に深く、西洋の事情にも通ず——順庵の門人。

伏見宮

有栖川宮

京極宮

閑院宮

皇族の御出家をやむ。

四親王家を定む

將軍交代の慶賀に来る。

名分を亂る。

費用多し。

朝鮮使待遇タイグイの法を改む

待遇厚きに過ぐ

對馬にて應對タイグイすることす。

# 新井白

# 石

外國貿易の額を定む——金銀の外國に出るを防ぐ。

綱吉時代の悪錢を鑄直す。

將軍家宣——家繼——吉宗の時職を退く。

西洋紀聞

采覽異言

著述に従事す

藩翰譜

讀史餘論

折たく柴の記



家康の曾孫——御三家の一——紀伊より入る——八代將軍。

賢明——政治の才に長ず——徳川幕府中興の英主。

政治のしかた——實用を主として虚禮をさく。

幕府の借金——二十餘萬兩。

居所の裝飾をやむ。

儉約をつとむ  
粗末なる食物をしのぶ。

大名以下のおごりをいましむ。

大に財政をととのふ。

砲術をはげます。

弓術、水泳術をはげます。

獵をなして武事を練習す。

柔弱の風を改む。

武事をはげます

# 徳川

# 吉宗

## 政治

人材を登用す——政治上の顧問——室鳩巢。  
租税の法を定む。

## 刑罰

刑罰をかるくす。  
目安箱を設けて、自由に訴へしむ。  
自ら裁判をなす。  
大岡忠相を江戸町奉行とす——裁判公平。  
御定書百ヶ條を定む。  
人民に規則を知らしむることにつとむ。

學を勵ます——曆學、算術、醫學、測候所。

荒地をひらき、水利を通す。

藥草、甘蔗、甘藷の栽培を奨励す。

諸國に物産を興す——諸大名これに習ふ。

外國品の輸入を防ぐ。

## 産業



# 尊王

幕府の政亂る

將軍——家重——家治——家齊。  
 田沼意次の子、意知の專横。  
 賄賂——不正の政治——人民大に苦しむ。  
 天災、大飢饉多し。  
 吉宗中興の政、全く破る。

尊王論起る

幕府より少額の御料を奉る。  
 人民、將軍あるを知りて天子あるを知らず。  
 光圀の大日本史——大義名分を明にす。  
 尊王論の先者——竹内式部——山縣大貳——共に罰せらる。  
 國學興る——僧契沖——加茂真淵——國体を論ず。  
 家齊、松平定信を任用す。  
 儉約を主とす。  
 學問を獎勵す。

# 論

幕政の改革

松平定信の改革  
 人才を登用す。  
 ロシヤの船北海道に来る。  
 海防のことに意を用ふ。  
 將軍家慶。  
 儉約を主とす。  
 大に武備を修む。  
 風俗を取締る。  
 世の中、やうやくさわがし。

水野忠邦の改革

儉約を主とす。  
 大に武備を修む。  
 風俗を取締る。  
 世の中、やうやくさわがし。

慷慨家出づ

寛政の三奇人  
 林子平——海防を論ず。  
 蒲生君平——御陵の荒れたるを歎く。  
 高山彦九郎——皇室の衰微を歎く。  
 國學者——本居宣長——國体を明にす。  
 平田篤胤——神道を主張す。  
 天下の人、皇室の尊きを知る。

○小學日本歴史二



將軍——家齊——家慶(十二代)——家定——家茂——慶喜。

幕府衰亡にかたむくスイギ家光カミナリ以來の鎖國カクゴク——外國の事情に暗し。  
尊王論——慷慨家ますく起る。

蘭學者のみ少しく外國の事情を知る。  
ロシヤ人北海道をさわがす間宮林藏の巡視。  
イギリス人長崎をさわがす近藤重藏の巡視。

外國船打はらひの令——海防を嚴にす。

瀛船の發明——紀元二千四百六十七年の頃。

憂國の士——渡邊華山——高野長英、獄に下さる。  
オランダ人、國を開くことを忠告す。

外國船來る

アメリカ合衆國の使者。  
嘉永六年(五十四年前)。  
返答を明年に延期す。  
ペルリ來る。再び來る。

外 艦 の

來 渡

下田、函館の二港を開く薪水  
食料

イギリス  
オランダ  
ロシヤ  
にも、亦、ゆるす。

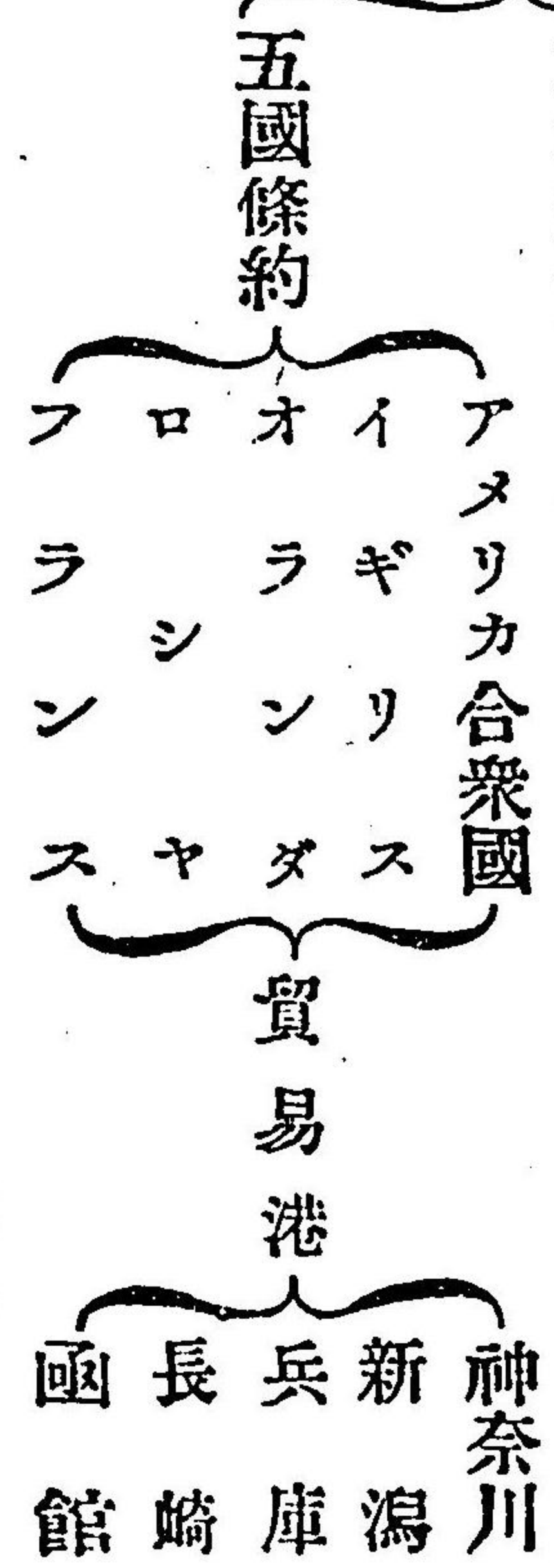
大に海方を嚴にす。

アメリカ合衆國の使節ハルリス來る。

幕府・通商貿易の勅許を乞ふ——許されず。

大老井伊直弼條約を結ぶ(四十九年前)。

通商條約を結ぶ





尊王論者——攘夷論者の幕府攻撃。

徳川齊昭——首領。

多くの公卿をやめしむ。

橋本左内

吉田松蔭

頼三樹三郎

等數十人を斬る。

安政の大獄

直弼反對者を壓服す

櫻田門の變——水戸の浪士、直弼を殺す。

イギリス人を武藏の生麥村に斬る。

鹿兒島藩とイギリス

償金

九十萬圓——幕府より。  
二十萬圓——鹿兒島藩より。

鹿兒島の戰

イギリスの軍艦七艘。  
藩兵勇戰——英艦逃れ去る。

攘夷論者京都に集る——朝廷攘夷に一決。  
家茂入京——攘夷期日——五月十日(文久三年)。

# 攘

# 夷

# 論

攘夷の議

下關海峡の戰——アメリカ、フランス、オランダ。

攘夷親征の議

長州藩の議による。  
朝議にはかに一變。

長州藩退けらる。  
攘夷論の公卿退けらる。  
七卿長州に走る。

長州征伐

第一回

長藩兵を率ゐて京都に入る。  
薩摩、會津の兵これを卻く。  
幕府の軍長州に向ふ。  
長州藩主罪を謝す。

第二回

高杉晋作等兵を擧ぐ。  
幕府の軍常に破る。  
將軍家茂薨す——慶喜つぐ。  
孝明天皇崩御。  
長州征伐の軍をといむ。  
幕府の威勢全く衰ふ。



幕府

長州征伐の軍、常に利あらず。  
幕府の威權衰ふ——大名幕府をみなごる。  
家茂薨去——慶喜つぐ。  
長州征伐の軍をやめしむ。

朝廷

孝明天皇崩御——今上天皇御即位。  
全國攘夷論やうやくやむ。

大政奉還ダイセイホウカン

山内豊信(土佐藩主)

政權奉還を將軍にすしむ。

大久保利通(薩摩藩主)

慶喜政權を奉還す。

幕府倒る

頼朝幕府を開きしより六百七十六年。  
家康幕府を開きしより二百六十五年。

明治の新政

總裁——有栖川宮熾仁親王。

議定

三條實美、岩倉具視、島津久光、毛利元徳、  
山内豊信、その他。

參與

西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、  
後藤象二郎、大隈重信、その他。

慶喜、新政にあづからず——舊臣等の不平。

慶喜、大兵を率ゐて京都に向ふ——薩摩藩を惡む。

鳥羽の戦  
伏見の戦

薩摩、長門、安藝の兵これを破る。

征討大將軍——小松宮彰仁親王。

慶喜、江戸に走る。

東征大總督——熾仁親王——參謀——西郷隆盛。

慶喜追討ツイトイ

慶喜罪を謝して水戸に退く。

江戸城、軍艦、銃砲ををさむ。

大政奉還



# 明治維新

## 諸地方追討

幕府の舊臣等諸方に兵をあぐ。

上野の東叡山による。

### 彰義隊

北白川宮能久親王を奉ず。

一日にして敗走す。

松平容保、會津による。

### 奥羽の戦

奥羽二十三藩の同盟。

會津城おちいる。奥羽平定。

大鳥圭介北海道にのがる。

總裁——榎本武揚。

陸軍——大鳥圭介。

海軍——荒井郁之助。

軍艦五艘——函館、五稜廓による。

武揚等降服。

### 函館の戦

全國平定——明治二年五月。

五ヶ條の御誓文——明治政治の大方針。

御即位——慶應四年——明治元年——一世一元。

大久保利通の功。

木戸孝允

藩主を藩知事とす。

諸藩主の領土奉還

## 諸種の改革カイカク

明治四年七月。

藩を廢し縣を置く

縣令を布く——三府七十二縣。

郡縣の制定る。

維新の大業全く成る。



# 臺灣征伐と

全權大使の派遣

岩倉具視、大久保利通、木戸孝允、伊藤博文。各條約國巡回——文明の有様視察。

三十六

征韓論

征韓論者

原因 明治新政の通告——これをしりぞく。無禮のこと多し。

西郷隆盛、江藤新平、板垣退助、副島種臣、後藤象二郎。

反對論者——全權大使一行の人々。

征韓論破る——同志者一同退職——六年十月。

佐賀の亂

明治七年正月 江藤新平——島義勇。大久保利通征討。

熊本の亂

明治九年十月 大野鐵平——宮崎車之助。神風連(又、敬神黨ともいふ)。熊本鎮臺征服。

# 西南の南の役

征韓論の餘波

萩の亂

前原一誠等。神風連に應ず。廣島鎮臺征服。

西南の役

西郷隆盛、桐野利秋、篠原國幹。私學校——多くの青年をあつむ。十年二月兵をあぐ。熊本城を圍む——谷干城。征討總督——熾仁親王。田原坂の激戦。鹿兒島城山陥る、賊徒自殺。隆盛の復官——明治廿二年。

原因

臺灣の蕃人、我が漂流人を害す。清國へ談判——化外の民なりと答ふ。征韓論者の心を安んせんとす。

臺灣征伐

征討軍——西郷從道——七年四月。

結果

大久保利通と清國との談判。五十萬兩の償金を出さしむ。



# 憲法發

立憲政治の準備

五ヶ條御誓文(第一條)。

議院設立の請願——板垣退助、後藤象二郎。

自由民權の説大に起る——國會開設の請願——八萬人

元老院、大審院を設く。

地方官會議

府縣會

町村會

地方自治の基礎成る。

國會開設の大詔(十四年)。

各國憲法の調査——日本憲法の編成——伊藤博文。

# 布

立憲政体の成立

帝國憲法の發布(明治廿二年二月十一日)。

帝國議會開會

議會

貴族院。

衆議院。

第一回——二十三年十二月。

東洋唯一の立憲國。



# 明治二十七年

## 江華島事件

我が軍艦砲撃せらる。  
朝鮮謝罪——修好條約を結ぶ。

## 明治十五年の變

朝鮮の兵士日本公使館を焼く。  
朝鮮謝罪——償金五十萬圓。

## 韓廷の二派

獨立黨——改革派——日本による。  
事大黨——保守派——清國による。

## 明治十七年の變

### 事大黨の亂暴

我兵を攻撃し、公使館を焼く。  
清國の兵助力す。

獨立黨のもの我國にのがる——朴泳孝——金玉均。

朝鮮の謝罪——償金。

### 結果

天津條約——日本と清國との談判。  
伊藤博文——李鴻章。

我國の失敗。

## 原因

朝鮮東學黨の蜂起——官兵の敗北。

清國の出兵——朝鮮を取らんとする野心。

日本出兵の迅速ジユンソク。

日本と清國との交渉コウショウ——清國の無禮。

豊島沖の海戦（七月廿五日）、成歡、牙山の陸戦。

宣戰の勅詔降る（八月一日）。

平壤の戦。黄海大海戦。

大本營を廣島に進め給ふ。

旅順口、威海衛の占領——北洋艦隊降伏。

遼東半島——臺灣——澎湖島の占領。

我軍連戦連勝——向ふ所敵なし——一度も敗軍なし。



八年戰役

結果

媾和

日本の談判委員

伊藤博文

陸奥宗光

清國の談判委員

李鴻章

李經芳

談判地——馬關。

明治二十八年四月十七日、馬關條約成立。

朝鮮の獨立。

條約

遼東半島、臺灣、澎湖列島の割讓。  
償金二億兩。

遼東半島還附

ロシア、フランス、ドイツの干涉  
三千萬兩を取る。

劉永福等の反抗。

近衛師團の討伐——北白川宮能久親王。

臺灣平定

全土平定。

能久親王の薨去。

我國の眞價を世界に知らしめたり。

清國義和團の蜂起——各國公使館を圍む。

各國聯合軍を組織す——第五師團——山口素臣。

北清事變

聯合軍北京占領(三十三年八月)清帝逃走。  
和議成る——償金四億五千萬兩、惡徒處罰。

日本軍の武勇——規律嚴肅——各國の畏敬。

徳川幕府の條約——日本の不利多し。

條約改正

明治維新以來の大事業。度々失敗。  
對等條約の實施——明治三十二年七月。

明治三十五年一月

日英同盟

明治三十八年八月改正——攻守同盟。



明治三十三年

原

因

戦争

ロシアが旅順口の租借——軍港とす。  
 東清鐵道の布設——軍隊輸送の便利。  
 北清事變以來多數の兵を滿州に置く。  
 滿州の兵を引揚ぐべき條約を履行せず。  
 日露の談判——朝鮮併呑の益々兵を増加す。  
 滿州占領——朝鮮併呑の大野心。  
 第一軍——黒木大將。第二軍——奥大將。  
 第三軍——乃木大將。第四軍——野津大將。  
 第五軍——河村大將。總司令官——大山大將。  
 戦争の始め——仁川、旅順口の海戦——廿七年二月九日。  
 宣戦の詔勅——二月十日。

旅順口の閉塞——第一回——二月廿四日  
 ——第二回——三月廿七日  
 ——第三回——五月三日

鴨綠江の戦——五月一日。吉野、初瀬、八島艦沈没——五月十五日  
 金州南山占領——五月廿五日。得利寺の大会戦——六月十五日  
 大石橋の大战——七月廿五日。遼陽占領——八月廿五日より  
 沙河大会戦——十月九日より。バルチック艦隊出發——十月十四日。

八年戦役

結果

七月二十二日より準備。  
 黄海大海戦——八月十六日。  
 降伏の勸告——第一回——八月十九日  
 ——第二回——九月十九日  
 ——第三回——十月三十日  
 ——第四回——十一月廿六日  
 旅順口占領——二〇三高地占領——十一月三十日。  
 降伏——三十八年一月一日。  
 奉天占領——二月下旬より。日本海大海戦——五月廿七日  
 ——三月十日迄。休戦命令——同廿八日。  
 ——九月十三日。  
 コルサコフ占領——七月八日。  
 アメリカ合衆國大統領の勸告。  
 場所——アメリカ合衆國ポーツマス。  
 全權委員——小村壽太郎、高平小五郎、ローゼン。  
 卅八年八月九日開始——九月五日終了。  
 日本得たる所——樺太の南部、東清鐵道の一部、  
 滿州の租借地、朝鮮保護の權利。



明治三十九年八月十五日印刷  
明治三十九年八月三十日發行

定價金八錢

著作者 普通學講習會

大阪市南區安堂寺橋通四丁目二三四番屋敷

發行者 大塚 宇三郎

大阪市南區心齋橋通安堂寺町南へ入

發兌元 田中 宋榮堂

大阪市南區安堂寺橋通二丁目二六番屋敷

印刷者 山田 元吉

著作  
所有